



北の森林 国有林

写真：高性能林業機械リーフアート

今月のトピック

- ・第44回全国育樹祭開催

(全国育樹祭併催行事について)



2021
No. 70



国民の森林・国有林

林野庁 北海道森林管理局



第44回全国育樹祭開催



左、鈴木北海道知事、
右、金子農水産大臣による施肥

令和3年10月9・10日に、新型コロナウイルスの感染拡大で開催が1年延期されていた「第44回全国育樹祭」が「つなごう未来へ この木 この森 この緑」をテーマに北海道でオンラインも併用し開催されました。

北海道で全国育樹祭が開催されるのは、第11回（1987年）以来で、34年ぶり2回目となります。

9日（土曜日）は苫小牧市の苫東・和みの森でお手入れ行事が行われ、秋篠宮皇嗣殿下が赤坂御用地からオンラインでご出席される中、2007年の全国植樹祭で上皇上皇后両陛下が植えられたアカエゾマツ（北海道の木）、ミスナラ、ハル

二、エゾヤマザクラ、ナナカマドに、金子農水産大臣や鈴木北海道知事などが施肥を行いました。

翌10日（日曜日）には札幌市豊平区の北海きたえーるで式典行事が行われました。

式典のオープニングアトラクションでは、北海道の魅力映像の紹介や、「TEAM NACS」のリーダー・森崎博之氏がナビゲーターとなり、ゲストの木工デザイナー・煙山泰子氏と「木育」を紹介しました。

その後、江差追分で有名なシンガー・木村香澄さんのすばらしい国歌独唱、主催者のあいさつのおと、秋篠宮皇嗣殿下より育樹祭にメッセージが寄せられました。

このなかで、「木育」を全国に先駆けて提唱し取り組んできた北海道で、かけがえのない豊かな森を後世へと引き継いで行くことは、私たちに残された大切な務めでありましょう。このよ

うな活動が今後も多くの人々に支えられ一層発展していくことを期待しています。」とお言葉をいただきました。

そして、林業の振興や緑

の推進などで功績のあった方々への表彰が行われました。

メインアトラクションでは、「木育開花 北の大地から未来へ、そして全国へ」とをテーマに、アイヌ古式舞踊（ムックリ・クリムセ）や、劇団フルーツバスケットと木育マイスターによる子供達のダンスなどが式典を盛り上げました。

最後に、次期開催県となる広瀬大分県知事からあいさつをいただき、式典行事が閉会しました。

その後の、エンディングアトラクションでは、江差追分（踊り）、平岸天神による、よさこいソーラン演舞が披露されました。

また、おもてなし広場で

林業の振興や緑化の推進などで功績あった方々への表彰式



林業の振興や緑化の推進などで功績あった方々への表彰式

企画課



北の森漫画・森のカルタを展示
北海道森林管理局
ホームページ



は屋外・屋内に多くの木育に関するブースがあり参加者がそれぞれのブースで、取組の紹介や、木製スプーン・フォーク・箸作りなどの体験を楽しんでいました。

北海道森林管理局は、森林・林業・木材産業や木の文化をより多くの方々に紹介し、日本の森林・林業の応援団になっていただくために「北の森漫画」を作成しました。

今回は、「漫画」とは別に「森のカルタ」も作成し展示しました。

「北の森漫画」については北海道森林管理局ホームページで、公開していますので是非閲覧ください。

全国育樹祭の併催行事について

技術普及課

【森林・林業・環境 機械化展示実演会】

第44回全国育樹祭の併催行事「森林・林業・環境機械化展示実演会」が10月10日、11日の両日、北海道苫小牧市柏原の苫小牧東部地域会場で開催されました。



グラップルレーキと
コンテナ苗自動植付機

新型コロナウイルスの影響で開催が心配されましたが、全国の緊急事態宣言が解除となり、感染対策と入場制限を行いながら2日間で約3千人が来場し、出展者等の説明を熱心に聞いていました。



フォワード

今年には林業機械メーカーなど68社が参加し、各社の林業機械や関係機材が展示され、作業の効率性や安全性の追求、更には環境問題に配慮した最新の林業機械の実演なども行われました。

北海道森林管理局はおもてなし広場において、北海道の国有林の紹介や、お山ん画などのパネル展示を行いました。

特に木の葉で作った高性能林業機械の切り絵（リーフアート）は関心が高く多くのの方に注目を浴びていました。



北の森漫画や
高性能林業機械リーフアートを展示

【育林交流集会】

全国育樹祭の併催行事として10月9日「育林交流集会」が札幌市中央区の共済ホールで開催され、「変わる天気と異常気象、豊かな気候は森で守られる」と題し、菅井貴子氏（天気予報士／気象キャスター／防災士）の基調講演が行われました。

また、「山を買うことは、地球の一部を預かること」、來嶋路子氏（森の出版社ミチクル代表）からの活動報告があり、ユーチューブにて全国にライブ配信されました。

した。

【全国緑の少年団 活動発表大会】

同じく9日には、「全国緑の少年団活動発表大会」が札幌市北海道大学高等教育推進機構大講堂において、天羽林野庁長官、猪島森林管理局長などの来賓を迎え開催されました。



全国緑の少年団活動発表大会開会式

全国で活動する113団体、約1万人の子どもたちの代表として、北海道「ながめま緑の少年団」、岐阜県「中野方小学校緑の少年団」

など、5団体が活動発表を行いました。



緑の少年団活動発表

また、緑の少年団育成功労賞の表彰式が行われ、北海道の小林文男さん他2名の方に表彰状の授与が行われました。

お手入れ行事や式典行事、また、併催行事についても、北海道森林管理局及び関係署の多くの職員がスタッフとして参加し、大会成功の一翼を担いました。

各行事の様子は、ユーチューブで配信されていますので是非ご覧下さい。

地域課題の解決に向けた取組

低コストで効率的な造林作業の民有林実践・連携

日高南部森林管理署

はじめに

当署管内は、北海道の中央
南西部に位置する日高流域
の南部で新冠町、新ひだか町
浦河町、えりも町の4町にま
たがる国有林約13万ヘク
タールを管理しています。

管内には、日高山脈が南北
に走り、百名山の一つ幌尻岳
二百名山のペテガリ岳、三百
名山の神威岳など1500
mを超える高峰がちなつら
っています。

また、森林の一部は優れた
自然環境及び自然景観を有
し、日高山脈襟裳国定公園、
日高山脈森林生態系保護地
域や北海道のすぐれた自然
地域等の指定地域となつて
います。

低コストで効率的な造林作業

一方、人工林では、今後森
林資源の積極的な循環利用
が進み、伐採後の更新面積は
増加することが想定され、地

域の森林・林業関係者の更な
る造林・保育コストの縮減に
向けた取組が不可欠なこと
から、国有林でも造林作業の
省力化及び経費の縮減に鋭
意取り組んでいます。

① 無地拵試験地の設定

令和元年度より造林経費
削減の可能性を検証するた
めに、一貫作業システムで誘
導伐を行った箇所に、地拵を
行わず枝条を存置したまま
の状態の植栽試験地を設定
し、コンテナ苗(グイマツ雑
種F1)を低密度で植栽しま
した。



コンテナ苗の植栽試験

令和2年度に对照地を設
定し、試験地及び对照地で植

生回復状況や苗木の活着状
況、野鼠による被害状況等の
調査を進めています。

今後も調査を継続し、無地
拵による経費削減の可能性
について考察していきます。

② 現地意見交換会

令和2年11月に日高振興
局森林室や管内市町村の林
務担当者、事業体及び日高北
部森林管理署等の職員が参
加し「低コストで効率的な造
林作業の意見交換会」を実施
しました。



現地意見交換会の様子

これまでの国有林で取り
組んでいる大型機械地拵に
よる造林コストの低減化、緩

効性肥料の有効性や無地拵
試験地等の紹介をしました。
参加者から「今後も継続し
てデータの収集を」などの意
見を頂いています。

低コストで効率的な造林作 業の民有林実践・連携と今後 の取組

今年度も無地拵試験地の
継続調査を実施し、経費削減
の可能性についてデータの
収集を行うこととしていま
す。

また昨年、培土に緩効性肥
料を配合したコンテナ苗を
植栽し、苗木からも造林経費
の縮減に繋がらないか検証
を進めており、その取組を民
有林(町有林)にも拡げて連
携・調査を行うことを現在、
調整しています。

今後これらの取組結果を
あらためて地域にフィード
バックしていくこととして
います。

センター通信

駒ヶ岳・大沼森林ふれあい推進センター

樹木博士認定会

駒ヶ岳・大沼森林ふれあい推進センターでは、森林環境教育の一環として、平成16年から七飯町大沼に近接する西大沼国有林に樹木博士認定常設コースを設定し、毎年数回の樹木博士認定会を行っています。



樹木博士認定常設コース案内板

樹木博士認定会とは、樹木の名前や識別方法を学習し、それをきっかけとして森林に親しんでもらうことを目的としたアウトドア活動です。

具体的には、応募された参加者にガイドブックを事前配布し、認定会当日は学習コースをガイドブック片手に講師の説明を聞きながら、実際に樹皮や枝葉に触れて識別方法を学習し、樹木の名前を覚えて行きます。

次にテストコースを周り、用意された二十種類の樹木をよく観察し、特徴を思い出して解答用紙に記入します。正解数に応じて段・級の位を決定し、樹木博士認定書が授与されます。

これまでに、延べ二千六百七十八名に樹木博士の称号を付与しており、森林管理署の若手職員も、樹木の名前を覚えるための研修として参加しています。

昨年は、新型コロナウイルス感染症拡大により、全て中止となってしまいました。今年は、第1回と第4回は中止となりましたが、開催できた第2回の7月4日には、女性のお友達二人の1組が初参加していただきました。



第2回樹木博士認定会

また、第3回の8月1日には、小学生の息子さんと

お父さんの1組が初参加していただきました。



第3回樹木博士認定会

どちらの回も2名の参加にとどまり、寂しいかぎりではありましたが、来年は、森林とふれあうきっかけとして、多くの方が樹木博士認定会にご応募いただけるようPRしたいと思います。

森林づくり塾

当センターでは、ほかにも森林ボランティア活動への参加意識の醸成と森林環境教育のリーダー的存在となり得る人材育成を目的とした「森林づくり塾」を開講し、塾生を公募しています。

森林づくり塾は、年に数回、森林作業等を体験し、森林の役割や森林づくりの基礎を学んでいただけます。

また、渡島総合振興局東部森林室主催の「森への誘い講座」との共同開催や相互参加など連携した企画を実施しています。



森林づくり塾

今年は、新型コロナウイルス感染症拡大により「森への誘い講座」がすべて中止となり、「森林づくり塾」も全5回のうち植付体験と治山施設見学会の2回の実施となりました。

来年は、新型コロナウイルス感染症対策を行いながら予定どおりすべて実施できればと思っていますので、多くの方にご応募いただけたらと思います。

参加をご希望される方、または興味をお持ちの方は、当センターにお気軽にお問い合わせください。

こんにちは 森林官です!

上川北部森林管理署
班溪森林事務所
首席森林官 渡部 信



(写真左)

【下川町の紹介】

班溪(ばんけい)森林事務所は、下川町の中心にあり奥珊瑠(おくさんる)、一ノ橋森林事務所とともに森林管理署内にあります。

下川町は道北の中心に位置し、北側にヒヤシリ山、東側にウエンシリ岳を望む山に囲まれています。

またスキージャンプではレジェンド葛西選手をはじめ多くのメダリストを輩出しています。



下川町スキー場

町の面積の約90%の56,810haが森林で、そのうち約85%の48,147haが国有林です。町内には、林業事業者や製材工場、森林関係事業者などが多数存在し、豊かな森林を中心とした産業が形成されているほか、町民も日常的に森林に触れな

から生活を送っており、持続可能な地域社会の実現に向けた森林・林業・エネルギー政策に取り組んでいます。

【班溪森林事務所の紹介】

班溪森林事務所が管轄する国有林は班溪担当区と然別担当区を合わせた15,446haで、トドマツやカラマツ、アカエゾマツを主体とする人工林と、多様な針葉樹と広葉樹で構成される天然林が広がっています。

部内には観光ガイドに載るような有名な場所はありませんが、知る人ぞ知るスポットが随所にあります。ひとつ例を挙げると、下川鉱山跡地の近隣に下川町名木10選に選ばれたミスナラの巨木があります。



ミスナラの巨木

樹高27m、幹周610cm、推定樹齢は340年で、周囲

には神秘的な空気が漂っています。隠れパワースポットのため、ガイド本や北海道局ホームページには掲載されていません。興味のある方は当事務所へお問い合わせ下さい。

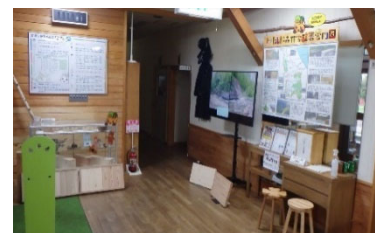
【ビジタースポットの開設】

そんな木材のまち下川町ではありますが、町内での「森林管理署」の知名度は決して高くありません。町民が週末に町有林を利用してのように、国有林でも森林レクリエーションを通して森林を楽しむことができることや役割を知ってもらい、もっと身近に感じられるよう、今年度から新たに、情報発信の場を庁舎内に設置し、PR活動を行うプロジェクトチームを立ち上げ取組をスタートさせました。

第一弾では基本的なことを知ってもらうため、上川北部森林管理署が関わる市町村や森林管理署の事業、さらに「そもそも国有林・国有林って?」をわかりやすく紹介するビジタースポットを開設することにしました。

オープンに先立ち、町の随所にポスターを掲示したり、小学校をはじめ、中学校や高

校、飲食店等にチラシを配布しました。



ビジタースポット

このことにより「早く行ってみたい」とかイメージキャラクターの「かほしかちゃんに会いたい」といった声が寄せられ、取組の効果が期待されます。

また、今後はメインイベントとして、デジタル森林浴も企画しており、情報発信を継続して行きます。

最後に下川地区の森林事務所は20代、40代、50代、60代、70代と幅の広い年齢構成となっていることから、毎朝のミーティングでは必ず体調を確認し、日々無災害を合い言葉に業務を行っています。

私も定年まであと一年と数ヶ月。限られた現役生活を国民全体の奉仕者として、有意義に働いていきたいと考えています。

各地からの便り



「各地からの便り」の詳細は

森もりスクエア

検索



「厚真高校林業現場体験バスツアー」を実施しました



【胆振東部森林管理署】

令和3年10月22日（金）、胆振地域林業担い手確保推進協議会主催による「厚真高校林業現場体験バスツアー」が1年生25名を対象に実施されました。当署も構成員になっており、フィールドの提供と現地での講師を務めました。

推進協議会では、高校生等を対象に林業の現状や魅力を積極的に発信して、不足している林業の担い手の確保を図る取組を進めております。

当日の内容は糸井担当区部内で、伐採作業の見学と枝打ちの体験を行いました。

見学会では高性能林業機械のハーベスタによる伐採、枝払、玉切りして造材する一連の作業を目の当たりにし、かなり衝撃的だったようでした。

枝打ち体験では、若齢級のうちに枝を払うことにより、その後の成長過程で枝の「節」が見えなくなり、節の無い建築材が作れる事や木材の強度も強くなるなどの説明の後、実際に枝打ちを行いました。

幌加内小学校で森林環境教育を実施



【北空知支署】

令和3年10月25日（月）、北空知支署では幌加内小学校において、5・6年生の児童を対象に森林環境教育を実施しました。

当日は児童15名と先生2名の17名が参加し、テーマは「学校の木を調べて、測ってみよう」です。幌加内小学校には沢山の木があるため、その木を自分たちで調べ、どのくらいの高さや太さなのかを、支署より持参した測高器・輪尺を使って測ってみました。樹種を調べる班は、樹木ガイドと校庭の木を見比べ、「この木はこんなにボコボコしているんだ！」など感じたことを話しながら観察していました。樹高や太さを測る班は、校庭の木を測り、「10メートルくらいかと思ったら28メートルもあった」などと驚きながら話していました。児童たちは毎日目にしている木でも、改めてじっくり観察してみると、いろいろな発見があったようです。

地球温暖化防止・北のてっぺん緑化プロジェクトに参加



【宗谷森林管理署】

令和3年10月16日（土）、稚内市において「地球温暖化・北のてっぺん緑化プロジェクト」の一環として稚内公園スキー場跡地で、職員3名を含め47名の参加により植樹活動が行われました。このプロジェクトは、地域住民がボランティア活動により無立木地への植樹を始めとした健全な森林づくりを通じて、地球温暖化防止に資することを目的としています。宗谷総合振興局森林室から苗木の植樹方法について説明の後、各自スコップを手に取り一斉に作業に取りかかりました。参加者からは、「苗木の植え付けは簡単に見えて、実際にやってみると地面が固かったり、苗木が傾いてしまったりと意外と大変で難しい作業でした」などの感想が聞かれました。無立木地に木を植え育てていくことは、風が強くシカが頻繁に出没する稚内市では難しいことですが、少しでも地球温暖化の防止に貢献していけたらと思います。

日高小学校5年生を対象とした森林教室の開催



【日高北部森林管理署】

令和3年10月19日（火）、日高北部森林管理署では、日高小学校の5年生を対象に森林教室を開催しました。今回は森林を整備するために必要な間伐作業の現場において、森林の働き等についての説明や、高性能林業機械の作業実演、スウェーデントーチの作成、ドローンの操作体験を行いました。最初に「北の森漫画」による森林と生活の関わり、育林から伐採・製材といった林業の流れについて説明を行いました。その後、ハーベスタで伐採、枝払い、玉切りといった伐採作業の流れを見学し、実際に運転席に座りアームの操作体験を行いました。見学していた生徒からは「立木から丸太になるまでが、あっという間ですごい」、「枝がきれいに落ちるのが気持ち良い」といった声が上がりました。スウェーデントーチの作成では、慣れない鋸の扱いに苦戦しながら切り出しを行っていました。最後にドローンの操作体験ではモニターの景色に歓声が上がっていました。

令和3年度森林・林業関係事業
体との意見交換会(WEB)の開
催と参加者の公募について

北海道森林管理局の各森林管理
署等が発注する造林事業、素材生
産事業及び立木販売等に関し、森
林・林業関係事業体と下記のと
おり意見交換会(WEB会議)を開
催しますのでお知らせします。
○参加申込み対象者(次のうち一
つでも該当)

1. 令和3年度に北海道森林管
理局の各森林管理署等が発注する
造林・製品生産事業受注予定の森
林・林業関係事業体等。

2. 造林・製品生産事業につ
いては、全省庁統一資格において、
競争参加地域は「北海道」を
選択し、「物品の製造」の「その他」、
または「役務の提供等」の「その他」
に登録している者、申請中の
者及び今後申請を予定している者。
3. 林産物の売買契約の競争参
加資格を有している者、申請中の
者及び今後申請を予定している者。

○参加申込み方法
意見交換会への参加は、「参加申
込用紙」に記入し、メール又はF
AXにより送付願います。
○参加申込み締切
11月12日(金曜日)必着

詳しくは各庁をご覧ください。

<https://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/apply/publicsale/seibi1/211014.html>

「森林再生ボランティアの森
林づくり」参加募集の公示
(野幌自然休養林 台風被害者
工林再生)

「社会貢献の森」活動希望者の
募集について公示しています。

○趣旨

野幌自然休養林(江別市)では、
平成30年9月の台風により、トド
マツやカラマツなどの人工林を中
心に約75ヘクタールの風倒被害
が発生しました。

この地域の森林はこれまでた
びたび風倒被害に見舞われてきた
ことから、林野庁北海道森林管理
局石狩森林管理署では、被害跡地
には風強い「多様な樹種・樹冠
層からなる」森林を、市民の皆さ
んの参加も得ながら造り上げてい
きたいと考えています。

ついては、この趣旨に賛同し、
継続的かつ計画的に活動いただけ
る森林ボランティア団体、企業、
学校等を募集しています。

○募集締切

活動フィールドの準備作業等を考
慮し、左記のとおりとします。
11月13日(土曜日)必着

詳しくは各庁をご覧ください。

<https://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/apply/publicsale/sidou/211015.html>

令和3年度「コンテナ苗の安定
需給協定」に係る企画提案の公
募について

北海道森林管理局では、「コンテ
ナ苗の安定需給協定」の締結を希
望される苗木生産者を次のとおり
公募します。

○背景と目的

森林の公益的機能の発揮や森林
資源の循環利用を図る観点から、
今後増加する主伐後の伐採跡地等
における効率的かつ効果的な再造
林を着実に推進するため、施工性
に優れたコンテナ苗の普及を進め
ています。

このようなことを踏まえ、本協
定はコンテナ苗の安定的な供給体
制の構築及びコンテナ苗生産者の
育成等に資することを目的として
実施するものです。

○協定者の選定

企画競争方式により協定者を選
定します。

○公募締切

11月26日(金曜日)必着

○協定の締結

企画提案の審査を経て、令和4
年1月下旬頃までに協定を締結す
ることとします。

詳しくは各庁をご覧ください。

<https://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/press/seibi1/211027.html>

広報 「北の森林 国有林」11月号
発行 林野庁北海道森林管理局
編集 総務企画部 企画課
〒064-8537 札幌市中央区宮の森
3条7丁目70
I P 電話 050-3160-6300
電 話 011-622-5213
F A X 011-622-5194

<https://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/>

今月の表紙

今月の木 「イチヨウ」

イチヨウは落葉高木で雄雌異株です。
街路樹としてよく植えられており秋に
は、葉は黄葉し、種は茶碗蒸しなどでよく
見る「ぎんなん」です。

イチヨウの黄葉のイラストを
表紙の月数字に載せました。